

一般演題口演 | 一般演題：教育(研修医,看護師,コメディカル)

■ 2024年7月19日(金) 15:25～16:10 ■ 第11会場 (宝山ホール 3階 第5会議室)

[O33] 教育(研修医,看護師,コメディカル)③

座長:梅村 武寛(琉球大学大学院医学研究科 救急医学講座)、新田 雅彦(大阪医科薬科大学 医療安全推進室)

15:53～16:00

[O33-05] 救急救命士養成課程の病院実習における実施数と評価の関連性について ～静脈路確保と薬剤投与に関する項目の検討～

*宇田川 美南¹、天野 智仁¹、三橋 正典^{1,2}、原田 諭¹、小倉 勝弘¹、星光長¹、藤本 賢司¹、中澤 真弓^{1,2}、鈴木 健介^{1,2}、小川 理郎^{1,2} (1. 日本体育大学保健医療学部 救急医療学科、2. 日本体育大学大学院 保健医療学研究科 救急災害医療学)

背景：当学科は二次病院で45時間、三次病院で約300 時間の実習を行う。三次病院では静脈路確保と薬剤投与が実施項目に含まれ、3段階で自己・指導者評価を行っているが実施数と評価の関連性は明確ではない。目的：静脈路確保と薬剤投与の実施数と評価の関連性について検討した。方法：2020～2022年の履修者205名の評価表から、記入漏れと実施0回を除外した100名のデータを用いた。静脈路確保と薬剤投与の実施数の中央値と四分位範囲を抽出し、実施数と自己・指導者評価、自己・指導者評価の関連を検討した。結果：静脈路確保実施数は6(3-10)だった。実施数と自己評価($r=0.242$)実施数と指導者評価($r=0.175$)自己評価と指導者評価($r=0.636$)だった。薬剤投与実施数は2(1-4.75)だった。実施数と自己評価($r=0.268$)実施数と指導者評価($r=0.237$)自己評価と指導者評価($r=0.461$)だった。考察・結論：当学科は実習のために実技試験を実施し、実習先に対して実習説明会と報告会を実施している。その結果、実施と指導者評価を受ける機会が増え、自己・指導者評価が共に高まった可能性がある。